

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikvsvCd=2171100445-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JikvsvCd=2171100445-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年2月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

緑に囲まれ静かな環境で、地域の方々に支えられながら、ホーム内は「いつも清潔に」を目標に、過ごしやすい環境づくりを力を入れています。終末期の取り組みもご家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限り、ご本人の希望に沿うような支援を行っています。常に介護知識・技術向上を目指し、積極的に研修を行っています。コロナ禍でも利用者様に楽しく過ごしていただけるよう、レクリエーションルームを用意しました。電子ピアノを置き、個別にスタッフと一緒に弾いて楽しんでいただいています。ホールに土を入れたプランターと苗や球根を用意し、利用者様みんなで一緒に植え付けを楽しみました。春にチューリップとパンジーが元気に咲くのを楽しみにしながら、皆さん自然と笑顔になりました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

静かな山間にある自然に恵まれたホームでは、日の当たる広い窓から、庭や山々の四季の変化を感じる自然風景を眺めることができる。コロナ禍の中でも、利用者が主体的に活動でき、彩りある生活ができるよう、庭のチューリップやパンジーをホールの中に持ち込み、プランターで利用者の能力や状況に合わせて育ててもらったり、ピアノを導入し、職員とともに弾いて、音に触れて楽しんでいただく等工夫しながら、「ゆっくり 楽しく 一緒に」という理念のもと、支援にあたっている。また看護師を手厚く配置し、緊急時体制も含めて往診や訪問看護にきていただく等、協力医との医療連携体制が確立しており、利用者や家族の安全・安心につながっている。さらに、職員の資質向上にも力を入れており、感染防止、事故防止、虐待防止等の各種テーマを課題とし、隔週で研修を実施する等、職員教育体制を充実させている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰が見ても分かりやすい理念であるため、分かりやすい場所に掲示し、意識を高め、実践しています。	「ゆっくり、楽しく、一緒に」という誰にもわかりやすい理念をホーム内に掲示し、職員間で理念を共有し、理念に基づいたケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方から野菜や果物をいただいています。施設行事で作った料理やお菓子をお裾分けしています。また気持ちの良い挨拶も心掛けています。	今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍にあり、地域との交流活動が困難な状況が続いているが、あいさつに心がける等、近隣との付き合いを大切にしている。また、近隣の方々からのいただきものやおすそ分け等のやり取りを通じて、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と施設外の散歩をし、地域の方と利用者様が直接関わることで、認知症の方との関わり方など理解が得られるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策のため引き続き書面開催しています。	今年度も引き続き、コロナ禍の状況下にあるので、書面開催とし、市担当課、地域包括支援センター、駐在所、その他広く地域の方々に書面での報告を行うとともに、意見をいただいている。	市担当課、地域包括支援センター、駐在所、その他地域の方々に書面での報告を行っているが、さらに自治会長や民生委員等の地域役員にも送付先の拡充を図るとともに、返信用の文書を作成する等して、より意見をいただけるよう、工夫に向けた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	引き続き会議は行えない状況が続いていますので、高齢福祉課へ伺った際に、直接職員の方に助言をいただいています。	今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で、会議開催が困難な状況にあるが、市担当課に訪問の際に介護保険制度やコロナ対応等についての情報提供を受けたり、困難事例が発生した場合は、市担当課や地域包括支援センターへ相談して助言を得る等、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を行い、全職員に対し研修を行っています。利用者様の安全を考慮しながら、拘束しないケアを提供しています。	自分がされて嫌だと思ふことは相手にとっても嫌なことと考え、ケアされる立場に立って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置し、職員間で話し合い、身体拘束を行わないで安全を確保するための方策を検討し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回研修を行っています。研修の中で自己点検シート(チェックリスト)を用いて、虐待をしていないか、虐待が行われていないかを再確認し、虐待の芽を摘んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる利用者様がおります。保佐人と連携しながら、実践で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の思いを伺いながら、じっくり時間をかけて説明しています。契約改定時も直接説明し、理解・納得図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限のため、ビデオ通話で面会を行っています。利用者様やご家族様のご要望は随時LINEや電話で受け付けています。	今年度も引き続き、コロナ禍の影響で家族等の面会は制限的にならざるを得ない状況にあるが、日常的なケアの中で利用者の意向を把握するとともに、家族とはライン等を活用したりリモート面会や電話、毎月の通信や写真の送付等で家族の意見を聞く機会を持ち、その意見を取り入れる等して、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム長がほぼ全職員と話し合える勤務時間体制になっており、随時話し合いができ、意見や提案を反映させています。	食事のことでの試みや入浴のことでの議論等、利用者の生活全般について、職員全体でいろいろ話し合っって意見を出し合いながら、チャレンジしてみ、改善していく体制ができています。ピアノの導入も皆で議論した結果、実現できたとの事である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の年齢、家族構成に配慮し、可能な限り希望を取り入れた勤務体制で行っています。(駐車場の安全整備、清掃の外注等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が介護、看護などの資格を有しています。外部研修にはリモート参加し、基礎研修から段階的に、幅広い知識、情報の習得に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議にはリモート参加し、他施設での活動報告を聞き、当施設での実践に向けての話し合いの機会を得ることができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や思いを伺い、状態やできること、できないことを把握し、安心して生活できる関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談時や、契約時などにご家族様に直接伺い、センター方式に記入していただきます。ご本人やご家族を知り、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から別々に思いを伺い、センター方式の内容とすり合わせながら、必要なサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、ご本人が能力を最大限活用できるよう、各々に合わせ、洗濯物をたたんだり、食器を拭いたりする作業をさせていただいています。利用者様側から「手伝うよ」と積極的に動いてくださいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と直接面会ができないため、手紙やビデオ通話で家族との絆を深めるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、センター方式にある内容を会話に織り込むようにしています。馴染みの食べ物をご家族に届けていただくこともあります。	以前勤めていた会社、旧知の友人、懐かしい場所、生活歴の中でのエピソード等を把握して、昔のアルバム等も活用しつつ、話題に織り込み、以前からの馴染みについて想起していただき、つながりが再確認できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のトラブルを避けるため、ホールで座る位置に配慮しつつ、同じテーブルで日常作業や食事をし、関わり合いながら過ごせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も親戚の方の入所申込をいただいたり、相談があったりします。その方の状況を理解した上で対応しています。現在は以前の利用者様の奥様が入所されています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望は随時ご家族にお伝えしています。意思をうまく伝えられない利用者様については、ご家族様にお話を伺ったり、表情などから読み取るよう努めています。	ニーズオリエンテッドな観点から、日常的なケアの中で、利用者それぞれの希望や意向等を把握している。意思表示が困難な人には、ノンバーバルコミュニケーションを活用しながら、表情やしぐさ等から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族にセンター方式に記入していただいています。また直接お話を伺って、今まで過ごしてこられた環境に近づけるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムを理解し、その方に合った生活をしていただいています。心身状態によっては改善できるように生活リズムを変えていただくこともあります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施しています。ご本人やご家族の意見を伺い、職員にはその方のできることやできないことを記入してもらい、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、調理員等の多くの職種の意見を聞き、全職員で話し合っ作成している。また、3か月ごとにモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践などは個別記録に記入しています。気付いたことはすぐに職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう知識を深めています。身寄りのない利用者様には成年後見制度を利用するよう勧め、外部のお買い物代行サービスを利用する等、ニーズに合った支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で面会や外出に制限があるため、手紙やビデオ通話等で外部とのかかわりを作っています。その中でご家族様から昔の話やご本人の好まれる話をさせていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期往診と必要時の個別往診をお願いしています。主治医の専門外の科に受診するときはご家族様に付き添っていただき受診しています。	月1回、協力医の往診があるとともに、緊急時対応も可能である等、密な連携体制ができています。また必要に応じて、訪問看護も受けている。病院に入院した際はサマリーを提供し、他科受診についても、同行をお願いする家族に渡す等して、情報提供を行っている。受診後の情報は申し送りや記録を通して職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回正看護師に来ていただき、情報共有しています。少しの体調の変化も報告し、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員やご家族様と密に連絡を取り合い、早期退院できるよう情報共有し、対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予め入所時に看取りに関する説明をし、終末期の前段階には、改めてご家族様の意向を伺い、主治医から直接ご本人、ご家族様にターミナル期についてお話をしていただき、チームで支援しています。	入居時に終末期の在り方や看取りの方針について説明し、意向を確認している。重篤化した場合は、かかりつけ医からの説明を受けるとともに、ホームからも利用者の状況、今後の経過について説明し、再度、利用者・家族の意向を確認している。家族の思いや意向に沿って、職員チームで看取りケアを実施している。また、看護師が手厚く配置されており、看護師を中心に勉強会を実施する等、看取りケアの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に赴き、救急救命講習を受けています。動画視聴によるイメージトレーニングも行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	電気や水道が使えない生活を想定し、ポータブル電源、仮設トイレ、炭火で調理する備えをしています。利用者様の安心と安全に配慮した避難方法を実践しています。	消防署の協力を得て、避難経路、避難場所、誘導方法等について職員間で意識しつつ、訓練を実施している。地域との防災連携やBCP計画(事業継続計画)もできている。以前、台風で停電があり、今後の対応体制を整える機会にもなったとの事である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室におられる方は時々様子を見させていただいたり、ホールにおられる方にはリラックスしていただけるよう見守りしています。排尿排便時には小声でプライバシー確保に努めています。	日々のケア(日中活動支援、トイレ誘導、入浴支援、食事支援等)において、本人の尊厳を大切に声かけや対応に心がけている。「ゆっくり、楽しく、一緒に」という理念のもと、リラックスして思い思いに過ごしていただけるよう見守る姿勢で、寄り添うケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の希望を汲み取り、一人一人の性格やその日の気分に応え、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節や天気や趣味の話等、利用者様の気持ちに寄り添い、笑顔になっていただけるようお話しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに重ね着や洋服選びを楽しんでいただけるよう声掛けや見守りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々利用者様の体調や好みを把握し、献立を考えています。イベント時には特別メニューを提供し、食事が楽しみになるよう努めています。おやつ作りを一緒にしたり、食後の食器拭きをお願いしています。	ホームで独自に調理しており、当日でも食事メニューを柔軟に変えることができるので、日々、利用者の状態や好みに合わせた献立を調理している。季節感のある料理や特別メニュー、おやつ作りにテイクアウト等、コロナ禍でも感染対策を行いつつ、工夫して食事を楽しんでいただけるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食手作りで栄養バランスの良い食事を召し上がっていただいています。入浴後や入床前には水分摂取を声掛けしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はスタッフが見守りながら、歯ミガキを行っています。ミキサー食の方には口腔ケアスポンジでケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の残存能力を大切に、排泄時間に気を遣い、トイレ誘導やパッド交換、ポータブルトイレの安全確認をしています。できる限りトイレでの排泄ができるよう自立支援しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけやトイレ誘導の工夫等、職員間で検討し、できることは可能な限り本人にさせていただく等、潜在能力を活かし、自立を促す支援に心がけている。移動が困難な利用者に対しても、ポータブルトイレを活用する等、安全・安心な排せつ支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂れるよう献立を工夫したり、水分摂取や散歩などしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いないよう、入りたいタイミングを伺いながら、楽しく気持ちの良い入浴を心掛けています。拒否されるときには声掛けの方法を工夫したり、別の日に変更したり、柔軟な対応に努めています。	入浴は、午前や午後に加えて夕方の時間帯にも対応する等、利用者の希望や状況に合わせて入浴していただけるよう支援に努めている。入浴を拒まれる場合には、声かけの方法を工夫しながら、利用者の本人のペースに合わせた対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後にご本人の希望を伺い、休みたい方には休んでいただいています。夜間は消灯し、不安がないよう声掛けしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が利用者様の薬の服用方法を確認し合い、誤嚥防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きをしていただいたり、おやつ作り、工作、ピアノなど、一人一人の得意なことや楽しみを一緒に見つけられるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍のため外出や面会はできませんが、ビデオ通話での面会や、ホーム周辺を散歩して季節を感じていただいています。	例年、外食や買い物等の様々な外出活動を行っているが、昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の影響で、外出活動が制限的にならざるを得ない状況にある。その中でも、庭を散歩したり、近隣へ散歩に出かける等の外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の自己管理をされている方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と電話やビデオ通話でお話できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節ごとに皆さんの作品を飾って、四季を感じられるようにしています。ホール中央にソファを置いてくつろぎの空間を作っています。	明るく開放的な共有空間であり、季節折々の利用者の作品や活動の写真等が掲示されている。また、庭や山々の四季の変化を感じる自然風景が眺望でき、居心地良く過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルにつけるようにして、リラックスできるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族やご本人の写真を飾っています。居心地よく過ごせるように、整理整頓、清掃を心掛けています。	馴染みの家具や調度品等が持ち込まれ、利用者の生活感を大切にし、一人ひとりの個性に合わせた空間となっている。整理整頓や温度・湿度管理が適切に行われ、また安全に配慮されている居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室に表示を貼り、分かりやすくしています。分からない方には丁寧に説明して、自立した生活を促しています。		